環境

ここでは、私たちを取り巻く〝環境〟として、「気象」と「緑」を取り上げます。また、かねてより取組を進めている「ごみ削減・リサイクルの状況」について紹介します。

横浜の気象

平均気温は上昇傾向、真夏日や熱帯夜も増加

日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、上昇率は100年当たりプラス1・19℃で、世界の上昇率のプラス0・73℃を上回っています。また、日最高気温が30℃以上の真夏日や日最低気温が25℃以上の熱帯夜の発生日数も増加傾向にあります。

横浜においてもこの長期的傾向は同じです（図1）。都市化の影響のある中、横浜の年平均気温は100年当たりプラス1・8℃、真夏日は100年当たりプラス22日、熱帯夜はプラス30日となっており、全国平均を上回る伸びとなっています。また、日最低気温が0℃未満の冬日は、100年当たりマイナス65日で減少傾向にあります。

図1 横浜地方の平均気温等の推移 資料:気象庁

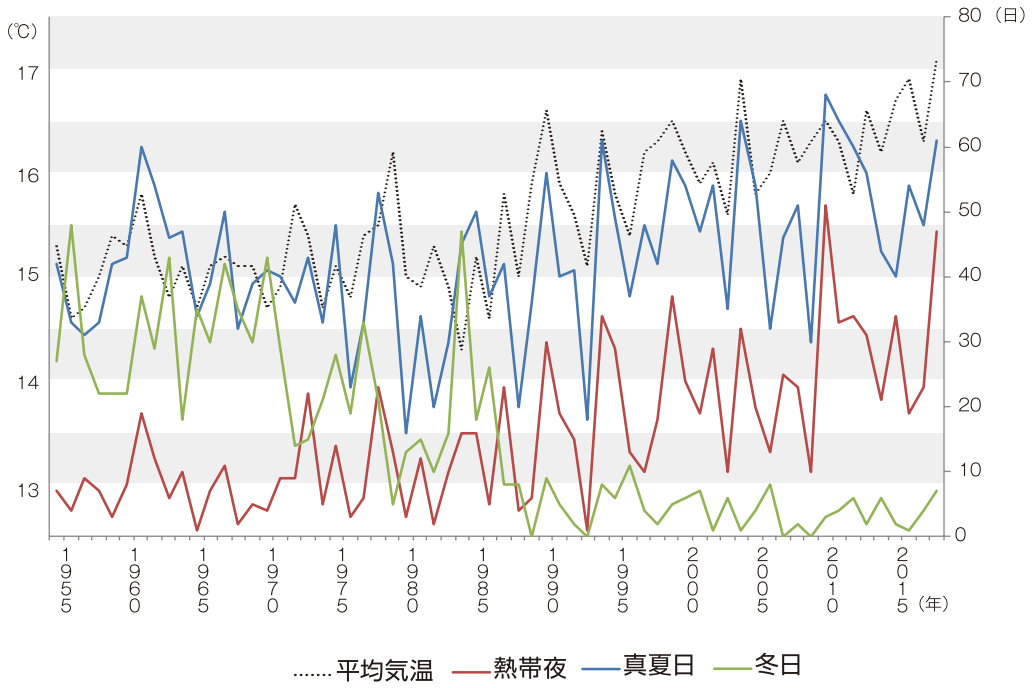
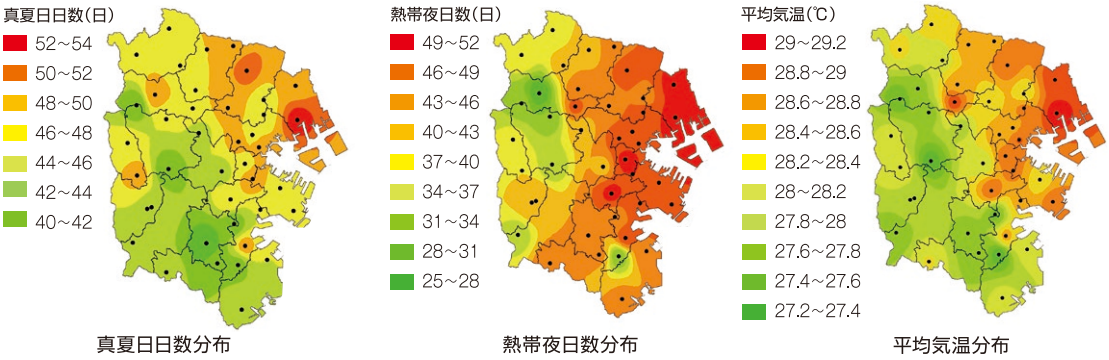


図2 2018(平成30)年7月・8月 真夏日日数、熱帯夜日数、平均気温分布 資料:横浜市環境創造局



真夏日日数分布　熱帯夜日数分布　平均気温分布

市内の夏は、日中は北東部、夜間は東部で高温の傾向

市内41地点の2018（平成30）年7月・8月の気温測定結果によれば、真夏日の日数は市域の北東部、熱帯夜は東部の海沿いの地域が特に多く、日中及び夜間における気温の傾向の違いが見られます。また、平均気温は東部の横浜港周辺地域で高く、西部の大規模な緑地のある地域では比較的低くなっており（図2）、平均気温の最も高い地点と低い地点の差は1・8℃となっています。

少しずつ早まる、桜の開花日

横浜の桜の開花日は、平成29年は3月25日、平成30年は3月19日でした。年ごとにばらつきはありますが、開花日は少しずつ早まる傾向にあり、その割合は50年で4日程度となっています。

短時間強雨の増加

近年、突発的で正確な予測が困難な局地的大雨を意味する「ゲリラ豪雨」の回数が増えているように感じられますが、全国の1時間降水量50㎜以上の年間発生回数の長期変化傾向を見ると、10年当たりプラス2・0回（100地点当たりに換算）と増加傾向が顕著となっています。

横浜を含む関東甲信地方においても、1時間降水量50㎜以上は10年当たりプラス1・6回となっており、増加傾向が見られます（図3）。なお、1時間降水量50㎜以上の雨とは、「非常に激しい雨（滝のようにゴーゴーと降り続く）」レベルとされています。

一方、横浜の年間降水量はおおむね1500～2000㎜で推移しており、長期変化の傾向は見られていません。

震度1以上の地震は、この5年間は年50回程度

横浜で観測された震度1以上の地震は、東日本大震災のあった2011（平成23）年に312回を記録しましたが、最近は年50回程度で推移しています（図4）。

なお、2015（平成27）年度の横浜市民の危機管理アンケートの結果によれば、大地震が発生した場合に特に心配なことは、「電気・水道・ガスの供給停止」（62・0％）、「家屋・建物の倒壊」（53・5％）、「食料や飲料水などの不足」（53・2％）の順となっています。

また、毎年実施の横浜市民意識調査では、2011（平成23）年以降、市政への要望のトップは「地震などの災害対策」となっています。

図3　関東甲信地方のアメダス地点で1時間降水量50mm以上となった年間の回数（100地点あたりに換算）の経年変化
資料:気象庁

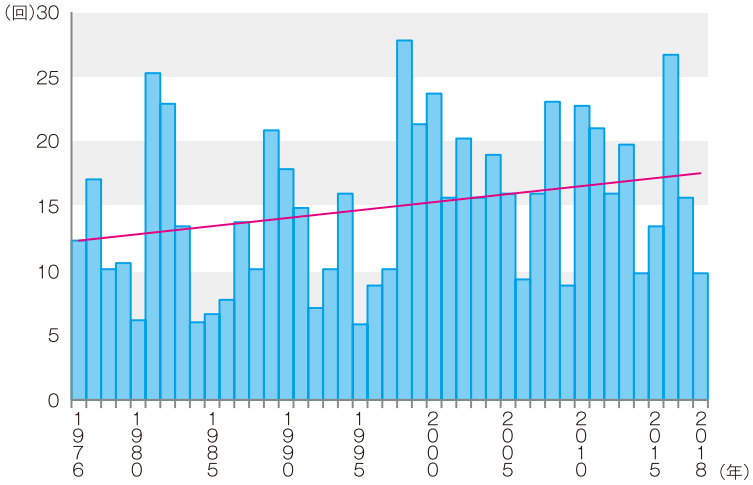
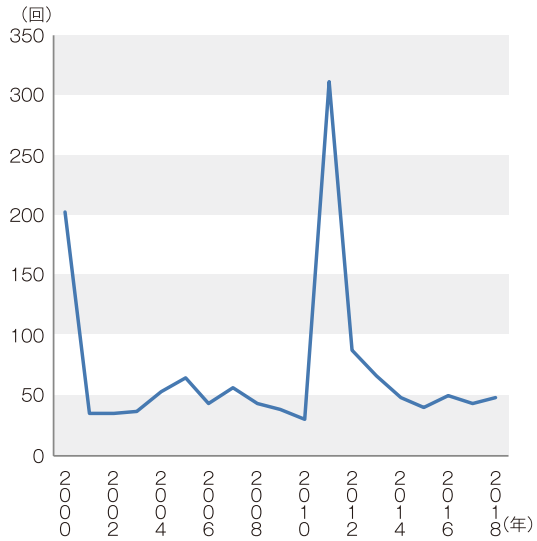


図4　震度1以上の地震回数　資料:気象庁



横浜の緑

緑被率の減少は緩やかに

2014(平成26)年度調査によると、横浜市の緑被率は28・8%で、2009(平成21)年の29・8%から1・0ポイント減少しています(図5)。緑被地の内訳は、樹林地17・0%、農地6・0%、草地5・9%で、面積としては、2009(平成21)年から438haの減となっています。

区別の状況では、緑被率が40%を超えている区は、緑区(41・4%)と栄区(40・6%)の2区で、西区(11・6%)、鶴見区(13・1%)、中区(14・0%)、南区(14・4%)の4区は20%未満となっています(図6)。

なお、緑被率は、航空写真から300㎡以上のまとまりのある緑を目視判読し、市域面積に占める割合を算定したものですが、このほか参考値として、個人の庭などの細かな緑の状況を把握するため、画像解析等による10㎡以上の緑被率が集計されており、その割合は34・1%となっています。横浜の緑は、都市化が進む中で大きく減少してきましたが、緑の減少に歯止めをかける取組や、市街地における緑の創出により、減少は緩やかになっています。

図5 横浜市の緑被率の推移

資料:横浜市環境創造局

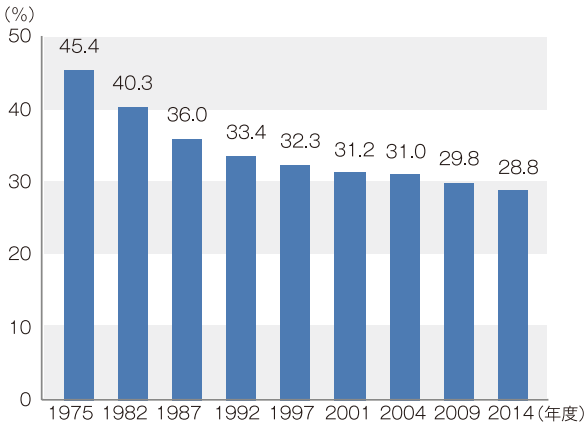
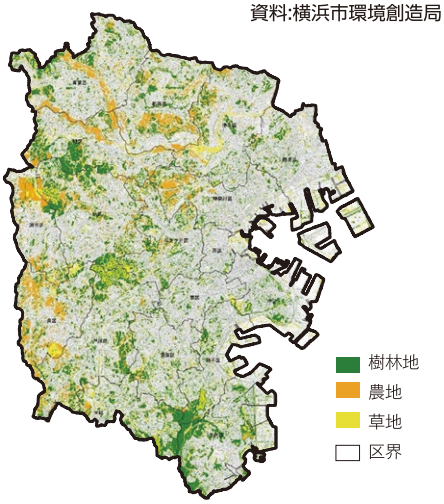


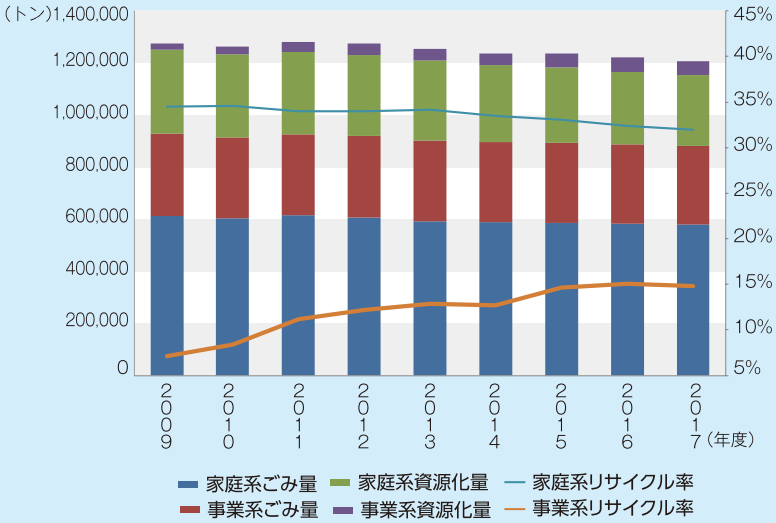
図6 緑地分布図2014(平成26)年度

資料:横浜市環境創造局



ごみ削減・リサイクルの状況

横浜市では、これまでごみ削減やリサイクルなどの取組を進めており、一般廃棄物の排出量(ごみと資源の総量)は、緩やかな減少傾向が続いています。

リサイクルについては、家庭系のリサイクル率は微減傾向となっています。これは、ペーパーレスや缶・びん・ペットボトル、プラスチック製容器包装等の軽量化などが、資源化量の減少につながっていると推測されます。事業系のリサイクル率は、家庭系と比べて割合は低いものの増加傾向にあります。

ごみと資源の総量、リサイクル率の推移　資料:横浜市資源循環局